

ミャンマー(2005)において探索・収集した ナス遺伝資源の特性



写真1 白花系統



写真2 球形、緑色系統



写真3 卵形、淡緑色系統



写真4 球形、黒紫色系統



写真5 一花房に20~60個の
花数をもつ系統



写真6 写真5の系統の果実

写真 ミャンマーから収集したナス属の花と果実(抜粋)

当センターでは、野菜の品種改良のために、国内外の種子を収集し、有用な特性を探しています。

2006年度には、2005年にミャンマーから収集したナス属48系統について生育および果実の特性を調査しました。

その結果、これらのナス属には、茎の帯紫程度が低い系統や、茎に毛が多い系統が多く含まれていました。花色は‘竜馬’よりも薄い淡紫色の系統が多くみられ、白色の系統(写真1)もありました。

果形は球形や卵形が多く、果色は淡緑色や緑色で斑紋がある系統が多くみられました(写真2、3)が、‘竜馬’と同じくらい

濃い紫色の系統もありました(写真4)。また、一花房当たり20~60個の白色の花をつける系統がありましたが、ほとんど着果せず、着果数は5~6個でした(写真5、6)。

以上のように、ミャンマーから収集したナス属植物の多くは、日本で一般的に栽培されているナスとは異なる多様な特性を有することが明らかとなりました。今後は、これらの特性の有用性とともな青枯病などの病気に対する抵抗性の有無についても調査し、新品種育成のために利用していきます。

(園芸作物担当 吉本江利 088-863-4916)